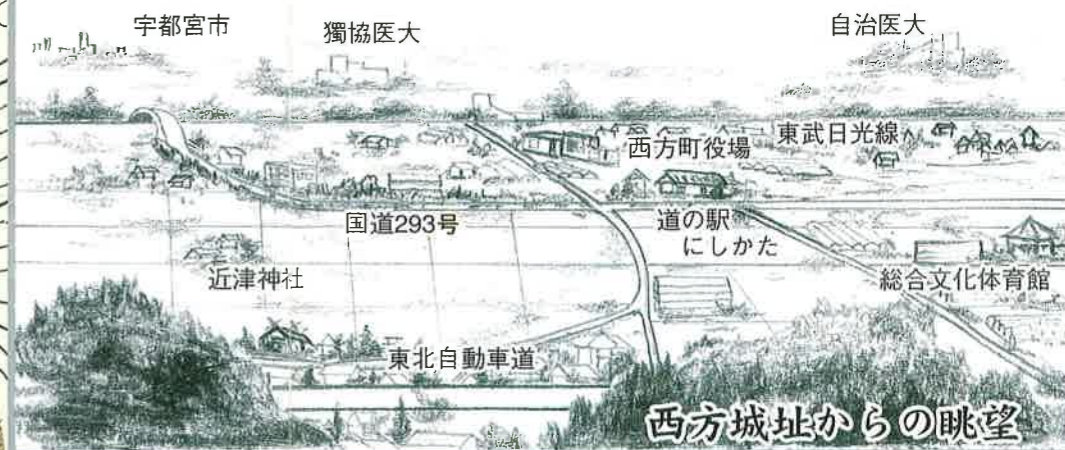


西方城址散策マップ

凡例	
	現在の登山道
	土塁・櫓台
	堀
	神社
	謎の巨石
	眺望良好
	井戸



歴代西方城主 * 西方記録(東安寺写本)による代・名・逝去年・法号

初代 遠江守烏丸景泰	6代 太郎左衛門尉綱定 永禄8年 宝山坊公居士
2代 三河守宗泰 延文5年 緑峰松山居士	7代 太郎左衛門尉綱吉 天正16年 露庵正玉居士
3代 伊豆守綱泰 応永2年 椿齡寿悦居士	8代 太郎左衛門尉綱清 寛文2年 大宗成功居士
4代 伯耆守綱貞 延徳3年 無改存孝居士	9代 太郎左衛門尉景英 宝永元年 宗本院心藏宗鉄居士
5代 安房守綱朝 大永6年 傑山照英居士	10代 代四郎景高 正徳4年 本源院自性浄心居士

用語の解説

大手(おで) 城の表側(防御正面)をいいます。

折(ひざ) 横矢をかけるため塁線に設けた屈曲をいいます。

切岸(きりし) 山城の崖や堀の斜面を表します。

曲輪(まがら) 城の中の一区画をいいます。近世の城で「本丸」「二の丸」など「〇〇丸」と呼ばれるものに該当します。西方城の曲輪がどのように呼ばれていたかは、残念ながらわかりません。

虎口(とらぐち) 曲輪への出入口をいいます。理論上、門の存在が想像できますが、必ずしも門があったとは限りません。

主郭(しゅかく) 曲輪の中で軍事上の中心となるもの(防御の最終拠点)を便宜上こう呼びます。近世の城でいう「本丸」にあたるものです。

豎堀(たてぼり) 山の傾斜に沿って、山の上から下へと掘られた堀をいいます。敵が斜面を回り込んで攻めてくるのを止めるためのものです。

土橋(どし) 堀の中の、通路として掘り残した部分をいいます。

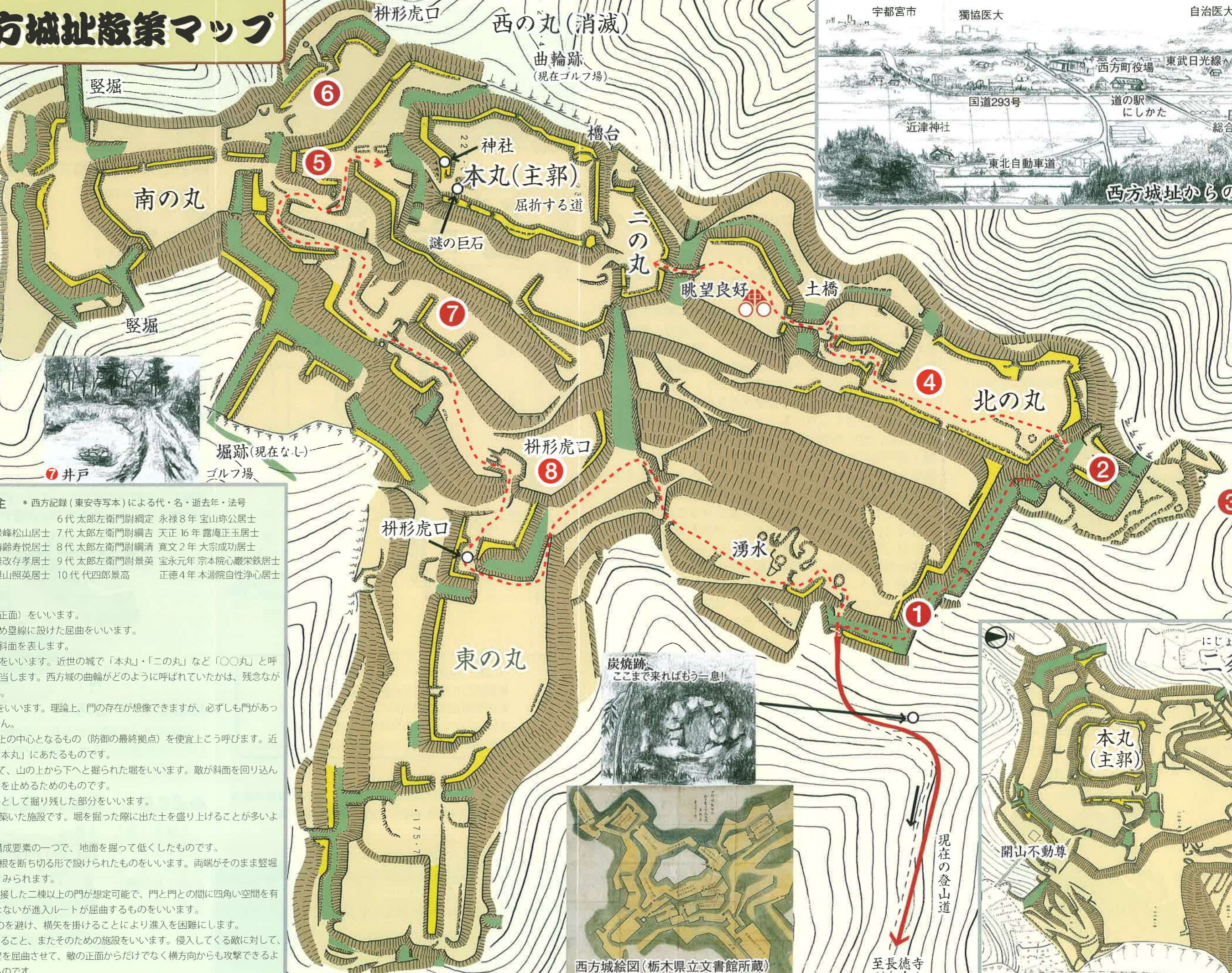
土塁(どし) 土を盛り上げて築いた施設です。堀を掘った際に出た土を盛り上げることが多いようです。

堀(ぼり) 城の基本的な構成要素の一つで、地面を掘って低くしたものです。

堀切(ぼりきり) 横堀のうち、尾根を断ち切る形で設けられたものをいいます。両端がそのまま豎堀となる例も多くみられます。

枡形虎口(ますがたぐち) 虎口のうち、近接した二棟以上の門が想定可能で、門と門との間に四角い空間を有するか、空間はないが進入ルートが屈曲するものをいいます。敵が直進するのを避け、横矢を掛けることにより進入を困難にします。

横矢(よこや) 側面から攻撃すること、またそのための施設をいいます。侵入してくる敵に対して、土塁・堀・城壁を屈曲させて、敵の正面からだけでなく横方向からも攻撃できるように工夫したものです。



現在の登山道

至長徳寺